

## ふるさと講座のお知らせ！

### 自然系第3回目 冬の野鳥観察会

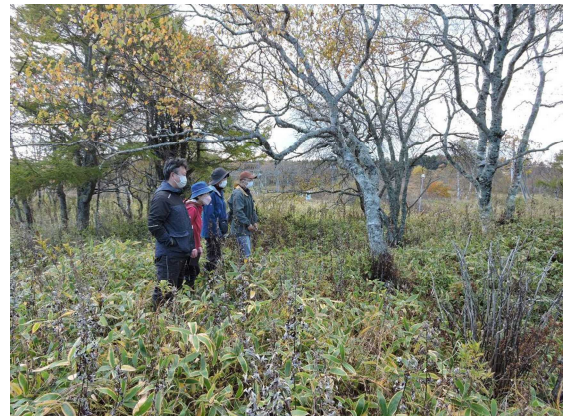
(オジロワシ・オオワシを中心とした冬鳥を観察します。)

- 日 時 令和6年2月18日(日)  
午前9時30分～0時30分
- 場 所 集合：郷土資料館  
観察場所：走古丹(風蓮湖)から尾岱沼  
(移動の車は、当館で準備します。)
- 講 師 NPO法人野付・エコ・ネットワーク
- 定 員 7名(先着順)  
2月16日(金)までに電話・FAXにて、お名前・電話番号を連絡ください。
- 持物等 双眼鏡・図鑑・暖かい服装。



### 歴史系第3回目 捺文・アイヌ文化～窪みが残る古代集落遺跡群を巡る～

- 日 時 令和6年2月25日(日)  
午前9時30分～12時30分
- 場 所 集合：郷土資料館  
遺跡見学(床丹1遺跡・床丹1チャシ跡)  
(移動の車は、当館で準備します。)
- 定 員 5名(先着順)  
2月23日(金)までに電話・FAXにて、お名前・電話番号を連絡ください。
- 持物等 水筒・暖かい服装・  
長靴(スノーシューを当館で準備します。)



## 出前移動展のお知らせ！

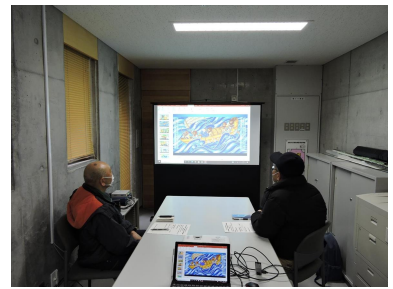
「メナシのアイヌとともに生きる～加賀伝蔵・松浦武四郎・南摩綱紀～」

- 日 時 令和6年2月14日(水)～28日(水)
- 場 所 別海町西公民館ロビー  
別海町西春別 99-3



## 加賀家文書歴史講座を開催しました。

1月28日（日）参加者2名で開催しました。内容は、現在制作中の絵本「アイヌ語通辞（通訳）加賀伝蔵物語」の読み聞かせを行い、加賀家文書の殆どを残した加賀伝蔵の一生について紹介しました。



## 「メナシのアイヌとともに生きる～加賀伝蔵・松浦武四郎・南摩綱紀～」その6 加賀伝蔵、ウイマム（御目見得）のためアイヌとともに函館に行く

ウイマムとは、アイヌ語で交換交易のことで、アイヌの首長が蝦夷地の産物を松前藩主に献上し、その返礼として本州製品と交換することでした。しかし、次第に形式化し、交易の要素を失っていき、幕府が蝦夷地を直轄するようになると、3年から5年に1回の年番制になり、場所内のアイヌが、通辞と共に松前や函館に赴くのが通例となりました。

伝蔵は、1859年（安政6）4月25日に行われるウイマム（御目見得）に根室場所の役アイヌ（仁助・陳平・重助）、付添いアイヌ（重助・作蔵）を連れ、函館に行くよう命じられました。

### ○根室から函館までの道程（3月1日～4月10日）

函館までの道程は、春先の大雪や大雨のため、先に進めなかったり、徒歩や馬での長旅は決して楽なものではありませんでした。役アイヌの仁助は、途中からはれものの病気になり苦しい道中となりましたが、伝蔵や行く先々の和人の心優しい対応により回復していきました。ウイマム（御目見得）には、根室・厚岸・釧路の三場所のアイヌが参加しました。

### ○ウイマム（御目見得）（4月25日）

伝蔵は、朝早くに献上品の確認などを済ませウイマム（御目見得）に備えました。係の役人、通辞、アイヌたちは麻の袴を着用しました。

ウイマム（御目見得）は、御奉行衆の挨拶に始まり、根室場所の仁助が三場所のアイヌを代表してお礼の言葉を述べ、献上品を差し出し、御拝料の品を受け取りました。最後に祝宴が開かれ無事にウイマム（御目見得）が終了しました。

### ○函館滞在中の様子（4月10日～28日）

函館に着いてからは、到着報告を済ませ、ウイマム（御目見得）での献上品についての打合せや稽古などを行いました。

伝蔵は、暇を見てはアイヌたちを街に連れ、南部藩・津軽藩・仙台藩の陣屋、弁天御台場、寺院の参拝、繁華街、人形芝居の見学など多くのことを見聞しました。街を歩いているとアメリカの貿易官が仁助の髭に興味を持ち話しかけてくるなど外国人との交流もありました。

伝蔵は、函館の港も外国へ開かれ、蝦夷地もこれまで以上に人の行き来が多くなり、開拓が進むと考えていたかと思います。メナシ地方は、開拓の速度は遅いかも知れないが、メナシ地方の発展のためには、アイヌに多くのことを見聞させ、ともに発展させて行こうという意図があったかと思われます。

### 別海町郷土資料館だより No.295

発行日 令和6年2月1日  
発行所 別海町郷土資料館  
別海町別海宮舞町30番地  
電話 0153-75-0802（FAX 兼）

**編集後記** 先月、大きな話題が二つありました。一つは、別海町出身の小説家河崎秋子さんの「ともぐい」が直木賞を受賞されました。以前、別の作品で当館にも取材に来られたのを記憶しています。もう一つは、第96回選抜高校野球大会（春の甲子園）の21世紀枠に本町の別海高等学校が選ばれました。当館々長のご子息も選手の一人で町内を挙げて応援することになります。